
色んな人(?)が召喚される第四次聖杯戦争

馬糞

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

色んな人（？）が召喚される第四次聖杯戦争

【Nコード】

N8367Y

【作者名】

馬糞

【あらすじ】

文字通り色んな人（？）が召喚される聖杯戦争です。戦いません。短編なので召喚段階で終わっています

（前書き）

切嗣の詠唱に違うところが多いけど誤字じゃないよ！誤字じゃないよ！！（大事な事なので二回）

ネタ的な所が多いので言峰は省略

どうせアッサシーンだし

「こんな単純な儀式で構わないの？」

アインツベルン城の礼拝堂、その床には衛宮切嗣が描いた魔法陣がある

水銀で描かれたそれは脇で見守っていたアイリスフィールが思ったよりも簡素な魔法陣

「拍子抜けかもしれないけどね、サーヴァント召喚の儀式にはそれほど大掛かりな降霊は必要ないんだ。実際にサーヴァントを招き寄せるのは術者ではなく聖杯だからね。僕はマスターとして、現れた英霊をこちら側の世界に繋ぎとめ、実体化出来るだけの魔力を供給しさえすればいい」

出来栄えに満足がいったのか、切嗣はうなずいて立ち上がると祭壇に聖遺物である聖剣の鞘を設置した

全て遠き理想郷^{アヴァロン}、聖剣エクスカリバーの鞘

「さあ、こえて準備は完璧だ」

そして切嗣は儀式に入る

この聖杯戦争に参加するサーヴァントを召喚するための儀式

「閉じよ《みたせ》閉じよ《みたせ》閉じよ《みたせ》閉じよ《みたせ》閉じよ《みたせ》。繰り返すつどに五度。

ただ、みたされる刻を破却する」

「え……」

アイリスフィールが僅かに首をかしげる

その様子に切嗣は気付いていない

自らが犯した致命的なミスも

「告げる 何時の身は我が元に、我が命運は汝の剣に。聖杯の寄るべにした外、この異、この理に従うならば答えよ」

そう、切嗣は気付いて居なかった

鞘が置かれた祭壇、そのすぐ脇に、誰かが捨てたパンの残骸があった事を

一体何時置かれたのか、そのパンは地球にとっても優しそうな色、しかし人体にとっても悪そうなモスグリーンへと変色していた
詰まるところ、カビが生えていた

「誓いをここに。我は常夜全ての善と成る者、我は常世すえての悪を敷く物」

通常ならばこの程度儀式には影響しなかっただろう

しかし……彼は……

そして皮肉な事に、そのパンはコロッケパンだった

「汝三大の言霊を纏う七天、抑止の輪より来たれ、天秤の守り手よ
！！」

魔法陣が光り、風と稲光が巻き起こる中、光の中から現れたサーヴ
アントは

どこぞの学校の制服を着た、右腕が義手の少女だった

釣り目に眼鏡、髪を後ろで束ねている

「問おう。貴様が私のマスターか？」

その問いに切嗣は答えられなかった

というかそれよりもまず一言言いたい事があった

「・・・カビ臭・・・ッ」

強風と稲光と共に飛んできた異常なカビ臭さ

一体何が原因なのか。それは切嗣とアイリスフィールには分からない

その頃、遠坂邸では遠坂時臣がこれはこれでどこぞのオッサンが捨てた魚雷のせい（なぜ捨ててある・・・）で、そして遠坂のうっかりによって聖遺物を紛失しまったせいで、とんでもねー物を召喚してしまっていた

「魚雷ガーーーーーーーーーール」

「・・・」

流石の時臣も、それを見たら硬まるしかなかった

適当にデザインされた丸っこい魚雷にハイヒールを履いている足と女性物のバッグを持った腕、口紅が適当に塗られた唇と化粧の濃そうな目の引っ付いた生き物

魚雷ガールと言っているが一体何者なのか、というか何のクラス？何コレ？クラスっつか何この生き物、生き物なの？人なの？サーヴァントなの？

時臣のツツコミたい所を代弁して見たがいかなものか

多分もつとツツコミたい所はあるのだろう

「じゃあ聞くわね。貴方が私のマスターでいいのね。どうせならソフトンさんに召喚されたかった。やだっ恥ずかしい！」

頬に手を当て顔を赤く染めながら訳の分からない事を一人（むしろ

一匹）口走る魚雷を見て時臣は思っ

どうしてこうなった・・・

そして間桐雁夜は

「『安心して。僕は弱い者の味方だよ』」

過去に起こった聖杯戦争にて最狂最悪、そして最弱のサーヴァントを召喚していた

詳しくは別作品の短編を参照^{ライ}

雨生龍之介はとある殺人鬼を召喚していた

「・・・」

「俺がライダーって・・・ハッ。傑作だな」

髪を斑に染め、赤いパーカーに黒いタクティカルベスト、迷彩柄の

ズボン、安全靴にハーフフィンガーグローブ

そして最も奇抜なのは顔面に彫られた刺青

名は

「零崎人識、殺人鬼さ」

ウェイバーと言えは

「ちよ、なつ、ええええええ!!?」

現在進行形で召喚した桃色の髪をしたピンクの服を着ている不愛想な少女に食われ、もとい吞まれていた

腹の中

「何処だここオオオオオオオオオオ！！！？え、何！？キャスターの腹の中なのか！！？」

ファンシーな生き物が辺りを動き回って居る

そして、

「やあ！新入りかい？」

そんな世界でウェイバーは爽やかな好青年に話しかけられていた
彼が召喚したサーヴァントはグウ。とあるジャングルに住む謎の多
すぎる人間なのか人間じゃないのかよく分からない生き物である

ケイネス

「・・・何だ貴様は」

「え、何だと聞かれても・・・アレー？私は確かアパートでブログ
の更新をしていた筈なのになぁ・・・」

ジョニーデップに似ている頭に茨を巻いた長髪の男を召喚していた
服装は無地のシャツにジーンズ

そんな格好だが恐らく、この聖杯戦争にて召喚されたサーヴァント
の中では最強の部類に入るだろう

「あ、ブッダ？聞いてよー何か聖杯戦争のサーヴァントとして召喚
されちゃった見たいでさー。しばらくそっち戻れそうにないけどパ
ソコン捨てたりしないだね！」

男、イエスは何処からか携帯電話を取り出し立川のアパートに居る

ブツダに電話をかけていた

『分かったよイエス。ただし、私がいなかったら……』

そこで通話が切れた

実際はあちら側の携帯電話の充電が切れただけなのだが

イエスは若干の恐怖を抱いていた

「……」

そしてケイネスは

「こ、この戦い。我々の勝利だ!!」

何処ぞのうっかりさんが言うはずだった台詞を拝借し、あまりにも予想外だったサーヴァントを召喚した嬉しさに歓喜の声を上げていた

召喚したサーヴァントの真名はイエス・キリスト

この聖杯戦争、サーヴァントの戦闘力にはその英霊の知名度にも影響が出るらしいのだが

恐らく、知らぬ者など誰一人居ないだろうこのサーヴァントは一体どれほどの実力を持つのだろうか

こうして、全てのサーヴァントが召喚された

明らかにイレギュラーなサーヴァントが揃っているこの聖杯戦争

一体どうなる事やら

続く・・・のか？

（後書き）

そもそもの始まりはもしも切嗣がサーヴァントを召喚した場所の近くにカビパンが落ちてたらと銀魂コミックス38巻を見ていた時に思った事です

その後、とりあえず切嗣の召喚シーンだけ書いたんですが物足りなかったので色々追加しました

でも時臣で力尽き、でもまあ全員書こうと

で、メツチャ酷い事になり、とりあえず短編で書いて見よう

で、こうなった

もしかすると続くかもしれない

あと見れば分かると思うけど一個前に書いた短編とリンクしてるという手抜き

要望次第じゃ何処かで続き書くかもしれないです

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8367y/>

色んな人(?)が召喚される第四次聖杯戦争

2011年11月24日22時52分発行